

第41回中国総合バスケットボール選手権 (兼)全日本総合バスケットボール選手権大会中国地区予選会															
日 時	2014年11月9日		男子 決勝												
会場名	笠岡総合体育館		( A )コート												
●	広島大学 (広島県)	69	{ <table border="0"> <tr><td>15</td><td>—</td><td>21</td></tr> <tr><td>18</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>22</td><td>—</td><td>23</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>9</td></tr> </table> }                 70 TOTAL-CLUB (島根県) ○	15	—	21	18	—	17	22	—	23	14	—	9
15	—	21													
18	—	17													
22	—	23													
14	—	9													
審判名	主 審	大山 直輝	副 審 前花 直哉												

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
年藤 健史	4	0					遠藤 寛隆	4	7	1	1	2	
伊勢本 丈	5	15	1	6			本田 康雄	5	-				
江島 智博	6	-					豊田 喬	6	4		2		
滝沢 大吾	7	7	1	2			青戸 鉄也	7	-				
佐藤 哲人(C)	8	4		2			福岡 裕喜	8	4		2		
深谷 研介	13	9	1	3			大塚 俊一	9	2		1		
日永田 将	15	18	1	7	1		近藤 浩章	11	-				
角田 泰地	16	3		1	1		守屋 翔太	12	5		2	1	
荒川 皓基	17	11	1	2	4		堤嶋 俊介(C)	13	15		7	1	
榊原 康太	18	-					松尾 伸孝	14	4		2		
森田 恭平	21	0					内藤 由記	15	5		2	1	
山崎 真治	22	-					元安 ユキヤ	18	0				
平田 匠	23	2		1			向井 祐介	19	14	2	4		
山田 圭治	24	-					藤田 雅也	20	10		5		
山崎 雄士	26	-					Daniel Carriveau	21	-				
濱岡 舜	29	-											
合 計		69	5	24	6	0	合 計		70	3	28	5	0

### 戦 評

1Q 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。TOTALが#19の3Pで先制する。広島大は#13を起点にボールを展開し、#15が確実にシュートを決めて応戦する。その後も広島大#13が鋭いドライブで得点し、リードを広げようとするが、TOTALもリバウンドからの速攻で得点し、互角の立ち上がりとなる。広島大は#7のドライブに#15があわせて得点を重ねていくものの、チームファウルがかさんでいき、TOTALは得たフリースローを確実に決めつつ、厳しいディフェンスから#13らがフィールドゴールを決めていき、残り1分で7点のリードを奪う。広島大は#15の3Pで追いつけるが、終了間際、TOTAL#13がリバウンドからゴールを奪い、広島大15-21TOTALで1Q終了。

2Q TOTALはメンバーを入れ替えるが、広島大は立ち上がり、#17の4本のフリースロー、#8のジャンプシュートで残り8分で同点に追いつく。一方TOTALは#15のインサイドを中心に得点を重ね、再度リードを広げていく。広島大は#16の得点、#5の3Pで追いつき、残り4分で広島大29-30TOTALとする。その後、一進一退の攻防となるが、残り1分からTOTAL#13がジャンプシュートを立て続けに決め、再度リードを広げ、広島大33-38で2Q終了。

3Q 広島大は開始直後、ゾーンディフェンスで揺さぶりをかけるが、TOTALは#13らが落ち着いてミドルを決め、優位に試合を運んでいく。しかし、広島大もマンツーマンの厳しいチェックから反撃し、#7の3Pや速攻、#15のバスケットカウントで残り5分で2点差まで追いつける。その後、TOTALは#20のインサイド、#12のドライブなどで得点し、リードを広げようとするが、広島大も#5がチャンスを実際に活かし、3連続ゴールで粘りを見せ、広島大55-61TOTALで3Q終了。

4Q 開始早々、広島大は#13を起点に#17が3P、#23がジャンプシュートを決め、差を縮めにかかる。一方、TOTALも#13インサイド、#8がカットインから得点し、残り8分で広島大60-65TOTALとなる。その後は、広島大は速攻を仕掛けるが得点につながらず、TOTALもオフェンスリバウンドを支配するもなかなかシュートが決まらず、膠着状態となる。残り1分半、TOTALは#19が3Pを決め、点差を6点に広げるが、広島大はタイムアウト直後に#13が3Pを決め3点差に追いつける。TOTALは時間を使いながらボール運びをするが、ターンオーバーを繰り返し、残り40秒、広島大#17にシュートを決められ、1点差となる。広島大は再度ボールを奪い追撃をするが、最後のシュートは惜しくも決まらず、広島大69-70TOTALでTOTALが接戦を制し、中国総合初優勝を飾った。